

民有林における 一貫作業システムについて

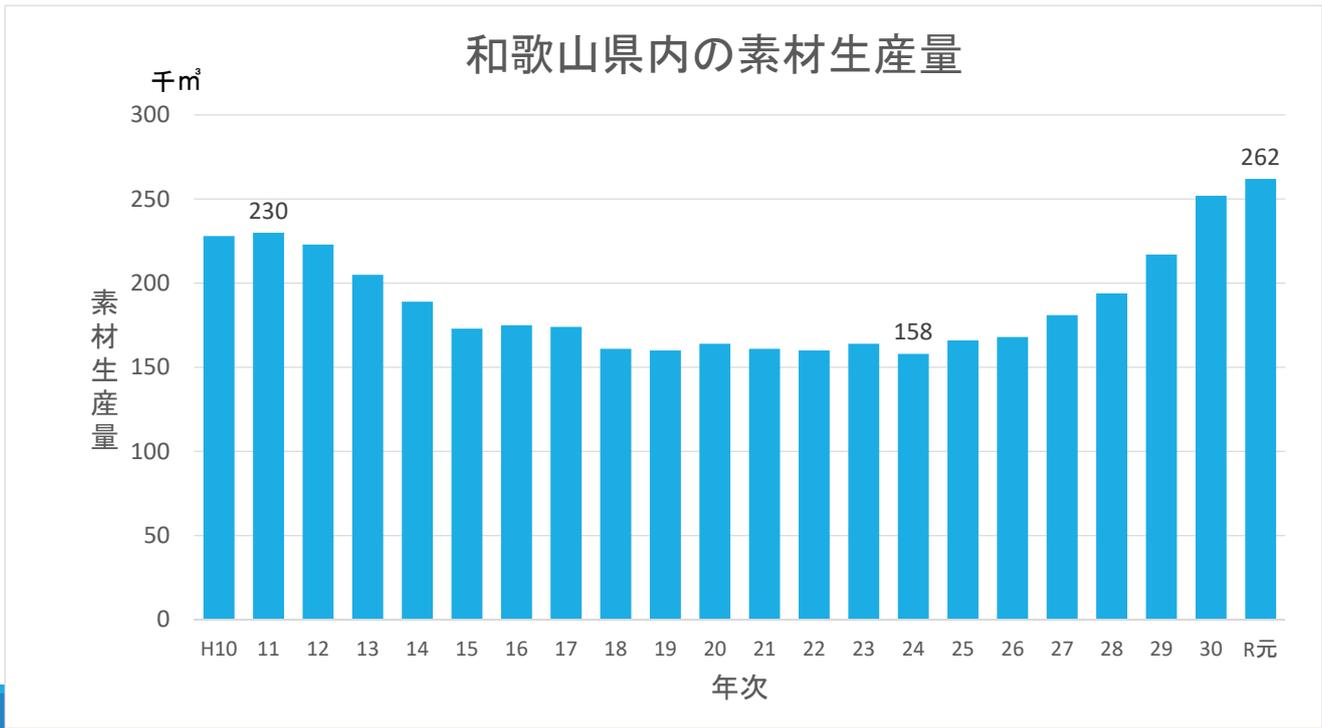
令和3年12月7日

和歌山県日高振興局林務課 主任 大澤篤弘

本日のおはなし

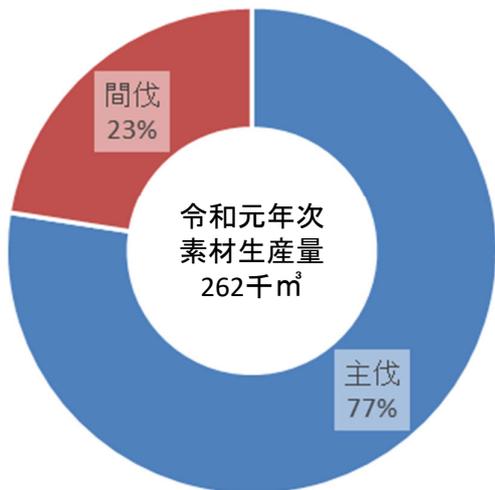
- 基礎資料
- コンテナ苗の活用(花粉発生源対策促進事業)
- アンケート調査結果
- まとめ

基礎資料

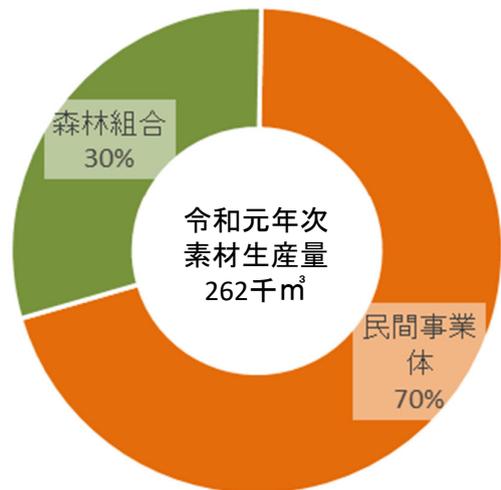


基礎資料

主伐・間伐別 素材生産量

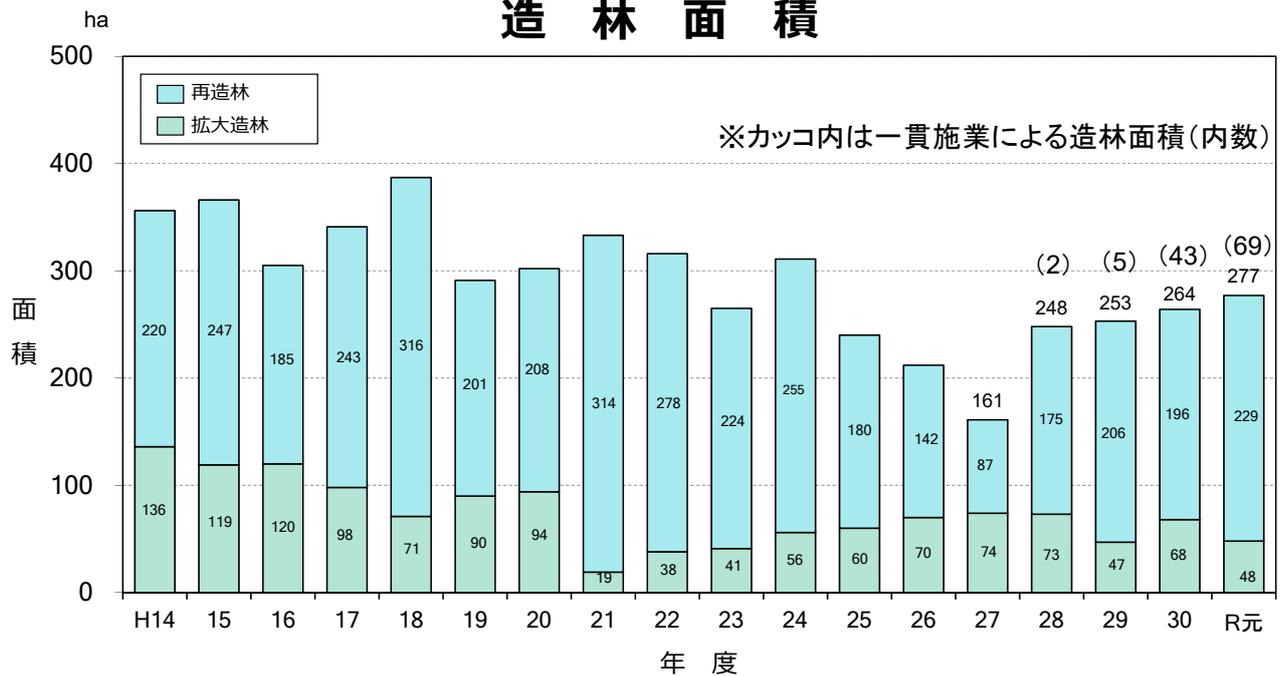


事業体別 素材生産量



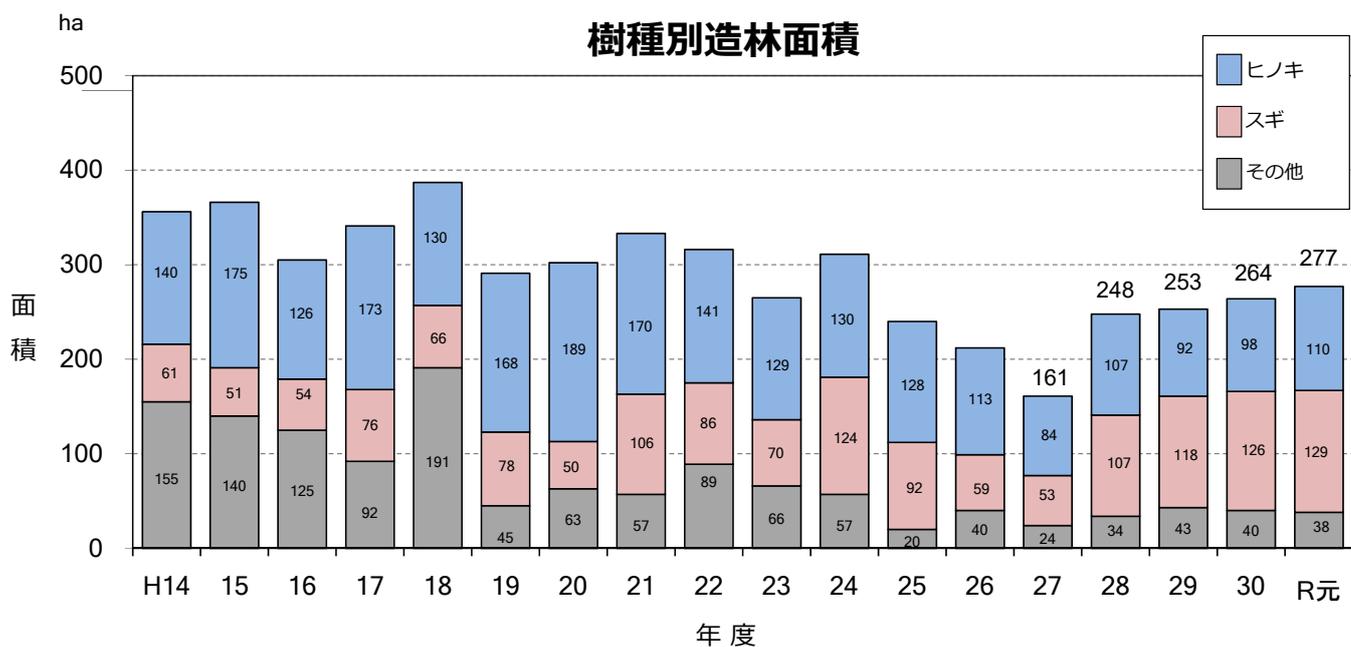
基礎資料

造林面積



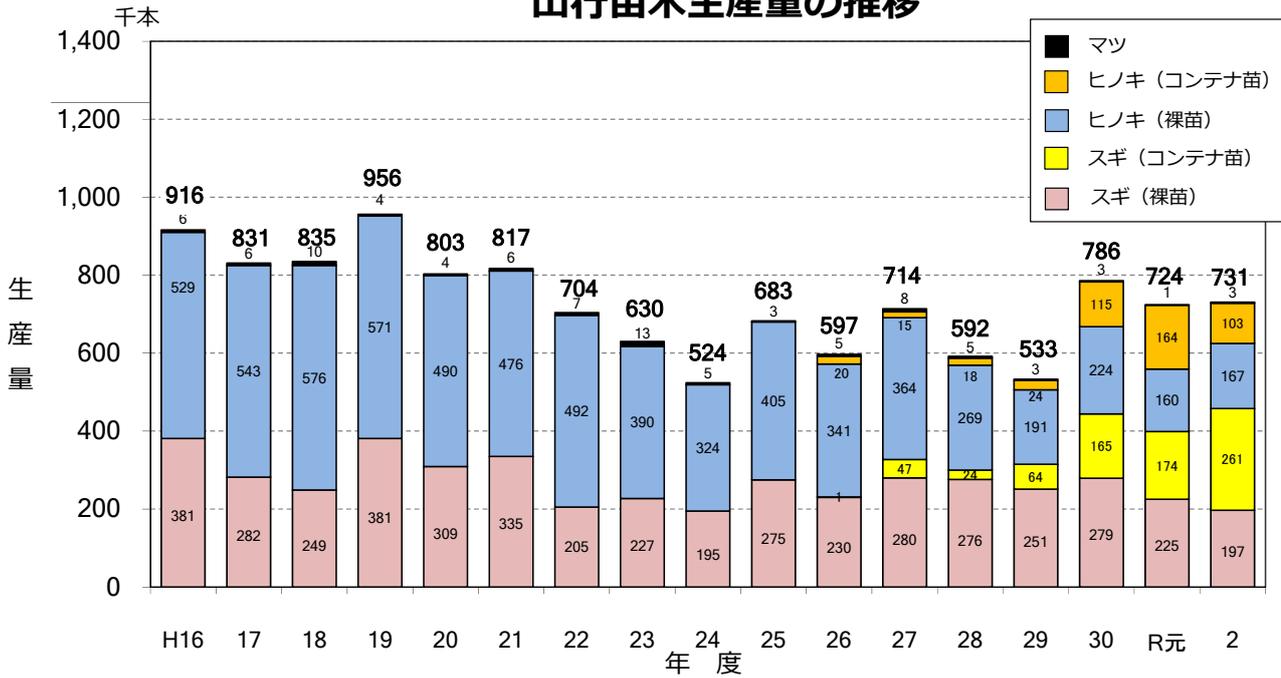
基礎資料

樹種別造林面積



基礎資料

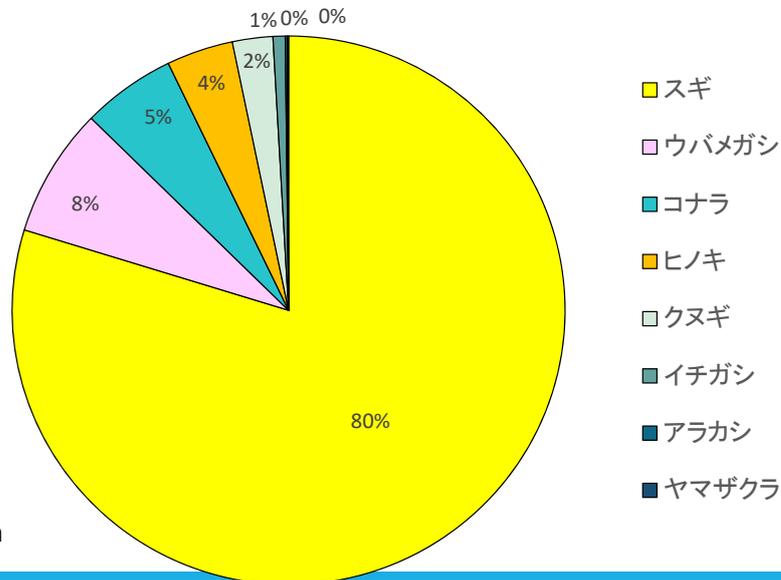
山行苗木生産量の推移



注: 上記生産量はその年の9月時点の生産量をもとに算出した見込み値

コンテナ苗の活用(花粉発生源対策促進事業)

一貫作業システムで植栽された樹種



実施年度: H27~R2
 合計面積: 50.02ha
 植栽合計本数: 126,980本
 植栽密度: 1,500~4,000本/ha

アンケート調査

調査先	質問項目
和海紀森林組合	取り組もうとしたきっかけ
清水森林組合	作業の分担状況
紀中森林組合	実施の感想
中辺路町森林組合	システムのメリット
(株)中川	システムのデメリット
大辺路森林組合	システムを普及するための課題
(株)山一木材	今後の実施方針
和歌山県	その他ご意見



※紀中森林組合から2名回答いただいたので、回答者数は9名

アンケート調査の結果(1) ~きっかけ~

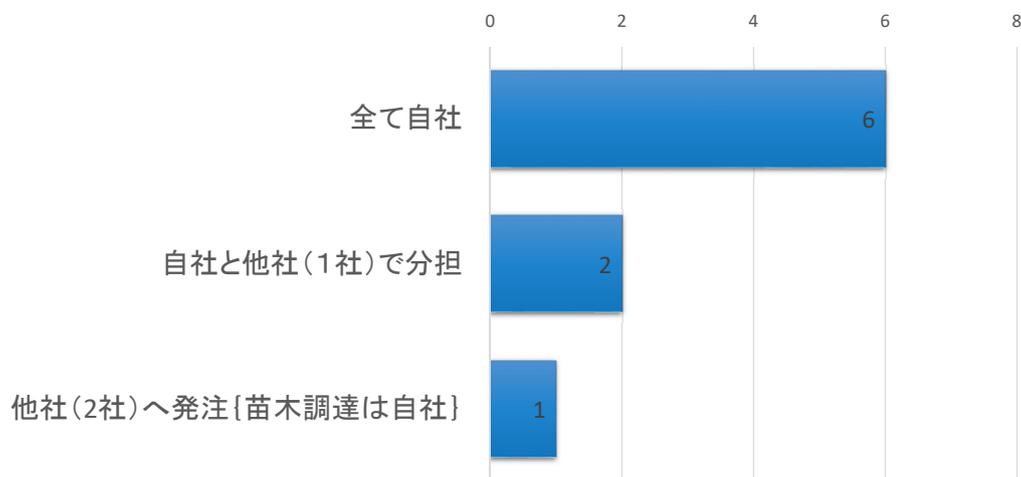
一貫作業システムに
取り組もうと考えたきっかけ



複数回答可

アンケート調査の結果(2) ～役割分担～

作業の分担



回答数9

アンケート調査の結果(3) ～感想～

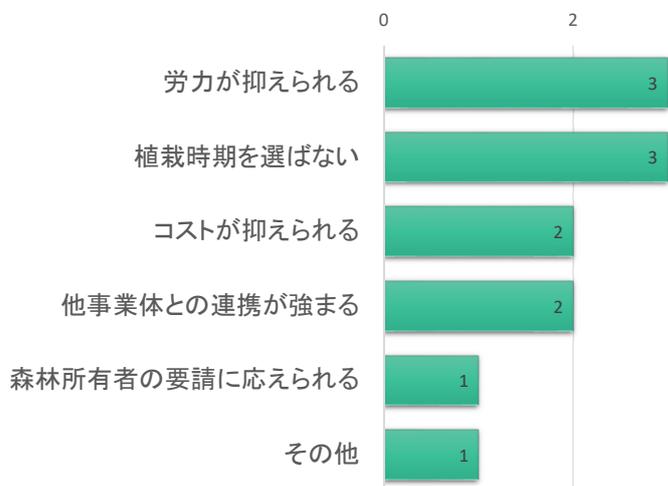
一貫作業システムの実施の感想



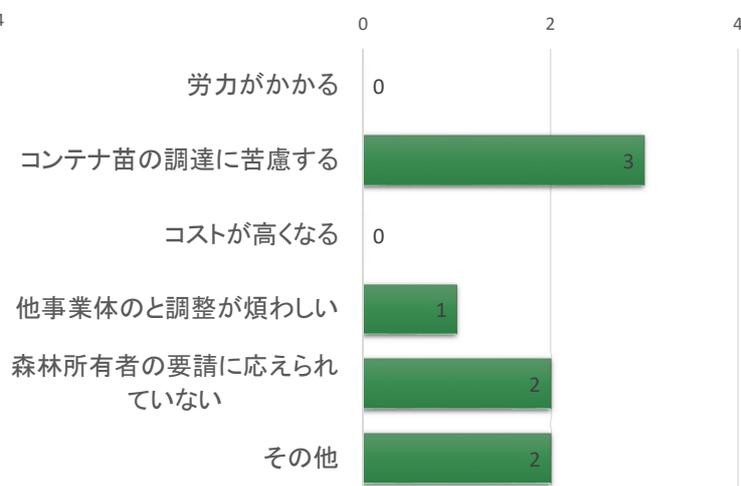
回答数9

アンケート調査の結果(4) ～メリット・デメリット～

一貫作業システムの利点



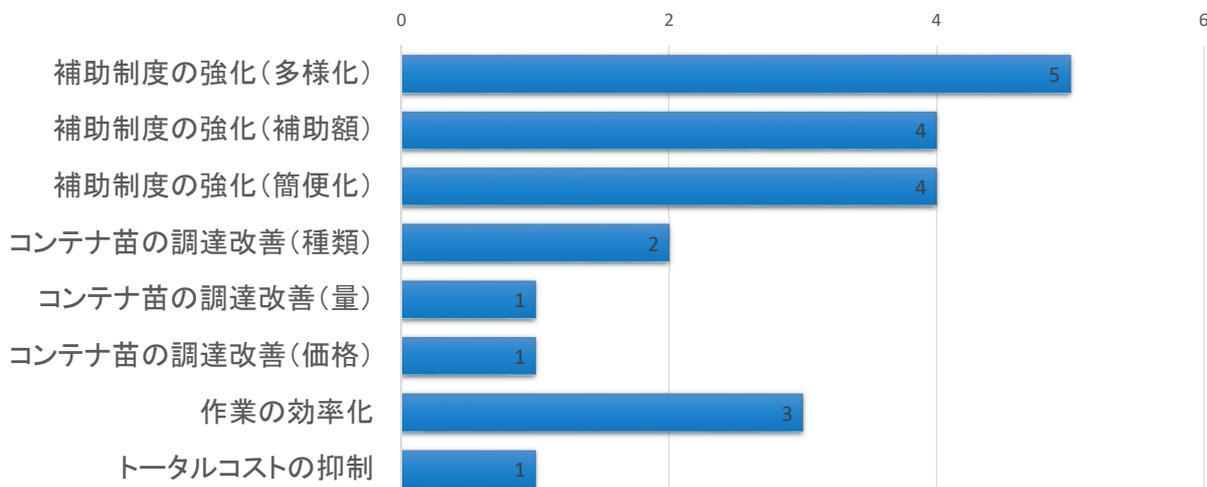
一貫作業システムの欠点



複数回答可

アンケート調査の結果(5) ～普及への課題～

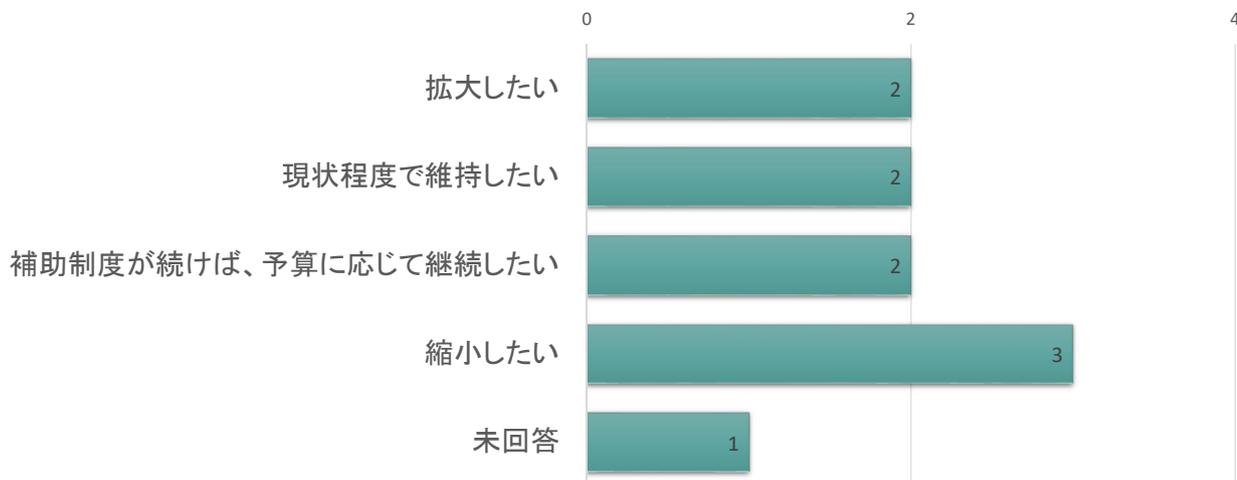
一貫作業システムを普及するための課題



複数回答可

アンケート調査の結果(6) ～ 今後は～

今後の実施方針



1名複数の回答があるため、回答数10

アンケート調査の結果(7) ～ 意見～

10ha位の大規模面積皆伐を2～3年かけて施業するときは、一貫作業だと使いにくい。毎年ネットを張って植栽することで、次年度の皆伐施業が難しい事がある。

A森林組合

植栽後の保育管理について、森林所有者との意思の疎通や確認が重要。皆伐で収入があっても積極的に植栽をしたいという方は未だに少数である。森林組合では伐採後の施業提案をしているが、普通林では篤林家など一部の林家に限られる。手厚い補助制度を望みます。また、短期間で下刈りが終了するような早成樹の育成が不可欠と思慮します。

B森林組合

花粉発生源対策促進事業においては、当年度内に伐採から植栽までを終えることとなっていること等により対象地が限られる。またコンテナ苗自体は植栽時期を選ばないところがメリットであるが、事業期間の縛りがあるため、そのメリットを活かせていないのでは・・・事業期間の延長(翌年度繰越)が認められれば、事業に取り組みやすくなると思われる。

C林業事業体

アンケート調査の結果(8) ～事例～

実施年度:H29、伐採樹種:スギ・ヒノキ、面積:4.60ha、植栽:コナラ5,200本・クヌギ3,000本・スギ2,000本



D森林組合

森林所有者からの要望

伐っても売れない、世が大変

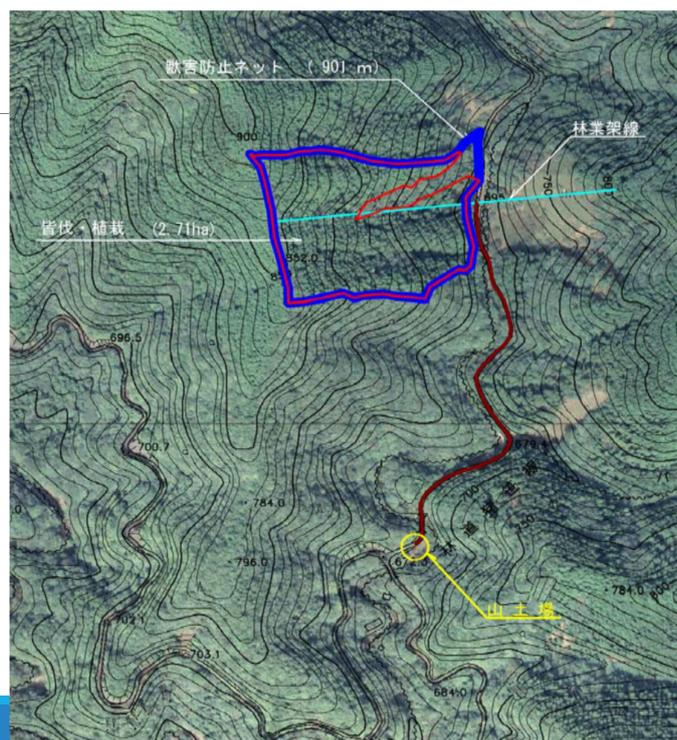
斜面の上の方は生育が悪い

コナラ・クヌギは大阪府の、少花粉スギは岐阜県から仕入れ

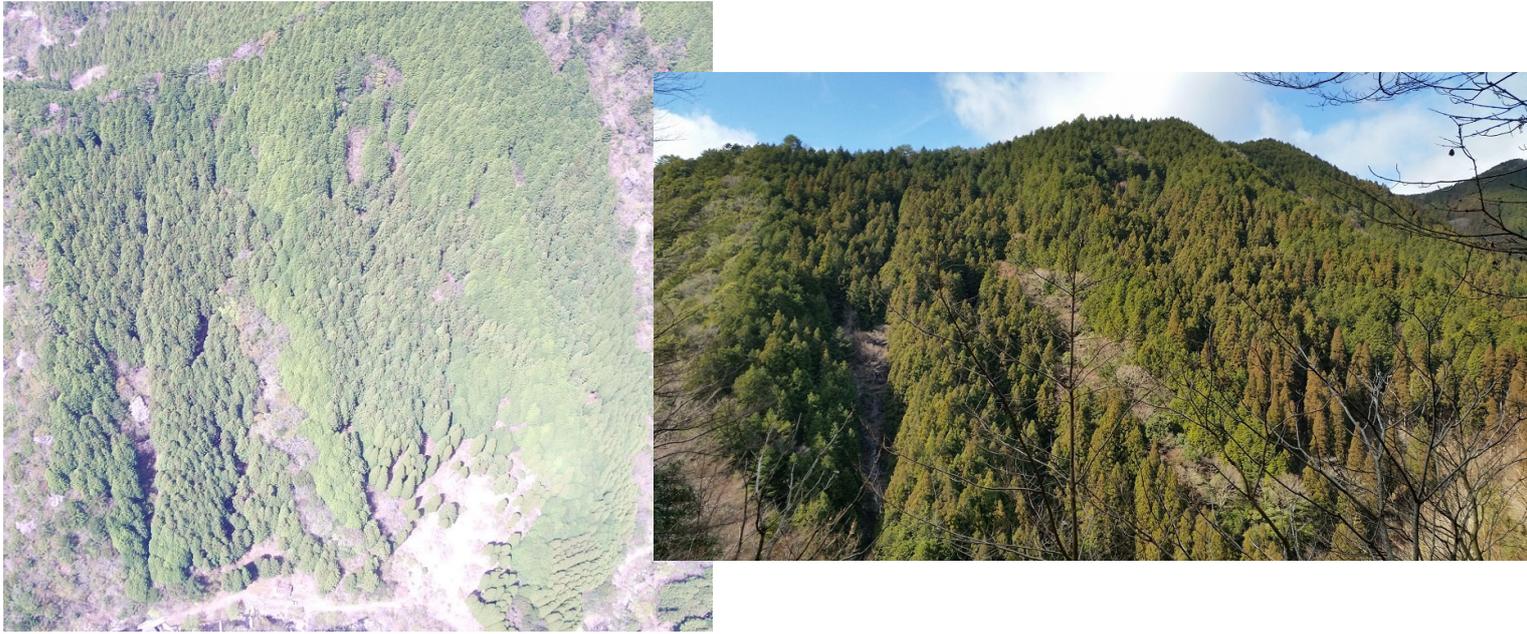
良質で、地域の風土に合った郷土種子の苗木を使いたい

安定的に調達したい。県内でも生産してほしい

施業地の様子



施業地の様子



施工前(2018年4月)

施業地の様子



伐倒作業と伐倒作業直後の林内の様子(2018年7月)

施業地の様子



集材作業(全幹)と集材後の林内の様子(2018年9月～10月)

施業地の様子



獣害防止ネット設置、TSプロテクター装着(2018年10月～)

まとめ

- コンテナ苗は増産傾向
 - 品質が安定しているスギに集中
 - 役割分担や協力体制の構築が重要
 - 取り組んだことで様々な課題が見えてきた
 - 補助制度は有用なので現場の意見を反映しつつ継続してほしい
- 